



東大阪市公衆衛生協力会 TEL 072-960-3804 E: [mil;kyouryokukai@koushueisei.com](mailto:kyouryokukai@koushueisei.com)



謹賀新年

東大阪市公衆衛生協力会
会長 佐堀 彰彦



当日はあいにくの天候で一日中雨にも関わらずたくさんの市民の方が各団体（9 コーナー）や行政（7 コーナー）及び 6 階講演会に来ていただき健康についての体験・展示・講演などを楽しんでいただきました。講演会や各コーナーに参加してスタンプを 5 個以上集められた方に素敵な景品をお渡ししました。スタンプラリーに 234 人の方が参加していただき集められたスタンプは総数 2242 個で、各コーナーの総数は 2,979 名になりました。参加いただいた方からは、「前回是一人で参加させてい母と一緒に参加し、今回も歯の健康相談や肌年齢測定また鍼の体験や骨密度を測定などしコーナーで記念品をいただけるなど有意義な一日でした、また次回も来ます。」との声を頂



食中毒予防キャンペーンを実施しました

令和7年10月31日ヴェルノール布施や近鉄布施駅周辺において食中毒予防キャンペーンを実施しました。

このキャンペーンは東大阪市、東大阪市公衆衛生協力会及び大阪食品衛生協会東大阪市支部の合同で行い46名もの皆様のご協力を頂戴し行いました。

当日は小雨の降るなか東大阪市保健所西協力会の粟飯原会長、東大阪市からは保健所所長の挨拶で始まりました。

細菌が原因となる食中毒は夏場（6月から8月）に多く発生していますが、ウイルスが原因となる食中毒は冬場（11月から3月）に多く発生しています。ノロウイルスによる食中毒は、ノロウイルスが付着した手で調理し、そのノロウイルスが着した食品を食べたりするなどして、ノロウイルスに感染することで起こります。



このことから市民の皆様には次の3つの基本を訴えて食中毒予防活動を行いました。

食中毒の原因菌「つけない」「増やさない」「やっつける」を3つの基本として

つけない＝洗う！分ける！手にはさまざまな雑菌が付着しています。食中毒の原因菌やウイルスを食べ物に付けないように、必ず手を洗いましょう。

増やさない＝低温で保存する！ やっつける＝加熱処理！

薬物乱用防止キャンペーンを実施しました

令和7年11月16日（日）に花園ラグビー場周辺において薬物乱用防止キャンペーンを実施しました。



当日は晴天の下、花園中央公園・芝生広場においては、子どもたちの未来づくりと地域コミュニティの活性化を目的とした「東大阪万博」の開催があり、また、花園ラグビー場では全国高校ラグビー大会の大阪府3地区決勝戦が3試合行われるとあってラグビー場周辺はたくさんの人や出店で賑わっていました。

薬物乱用防止キャンペーンは午前9時半から東大阪市公衆衛生協力会佐堀会長の挨拶・東大阪市保健所松本所長の挨拶で始まりました。その後、東大阪市公衆衛生協力会の会員及び東大阪市職員総勢36名により、花園ラグビー場周辺において啓発物品の配布をはじめとし薬物乱用防止の横断幕やのぼりを立て薬物乱用防止の啓発に努めました。

薬物の乱用による弊害は乱用者自身の健康を損なうだけでなく、家庭を崩壊し、また、各種犯罪の要因となるなど大きな社会問題となっており、近年、青少年を含む一般市民にまで薬物の乱用が急増しています。これら薬物の乱用を防止するため、街頭キャンペーンを通じて薬物についての正しい知識の普及啓発を図り、市民の健康保持と公衆衛生の向上を周知しました。



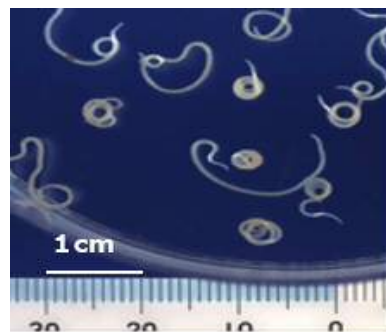


ご注意ください アニサキスによる食中毒



近年、アニサキスによる食中毒が多く発生しています。令和六年に全国で発生した食中毒事件数の内、約3割がアニサキスによる食中毒となっています。

アニサキスは寄生虫の一種で、その幼虫は長さが2から3センチメートル、幅は0.5から1ミリメートルの白い糸くず状で、イカやサバ、カツオなどの魚介類の内臓に寄生しています。寄生している魚介類が死亡し、時間が経つと、内臓から筋肉中へ移動してくることが知られています。



アニサキス幼虫が寄生している生鮮魚介類を生もしくは生に近い状態で食べることによってアニサキス幼虫が胃壁や腸壁に刺入して食中毒を引き起こします。

アニサキスによる食中毒は、食べてから1時間ほどで激しい腹痛や吐き気、嘔吐などの症状が現れます。

アニサキスによる食中毒の予防法は次のとおりです。

- 魚介類を生食するときは調理時にアニサキス虫体がないかよく確認し、虫体を除去してください。
- 魚を購入する際は新鮮な魚を選んでください。また、魚を丸一匹で購入した際は、速やかに内臓を取り除いてください。
- 魚の内臓を生で食べないようにしてください。
- 魚をマイナス20℃以下で24時間以上冷凍すると感染性が失われます。

厚生労働省のホームページ「アニサキスによる食中毒について」



▶保健所食品衛生課 電話 072-960-3803 FAX072-960-3807



スズメバチによる被害を防ぐために



スズメバチは軒下や樹木の中に巣を作りますが、攻撃性が高く刺されると死ぬこともあります。巣の駆除をすることでスズメバチの被害を防止できますが、駆除作業は専門業者に依頼しなければいけません。

4月から5月は冬眠から覚めた女王バチが巣作りのため、庭木や植栽などに1匹で飛来します。そこで、この時期に誘引トラップを仕掛け、女王バチをおびき寄せて捕獲することにより、周辺に巣が作られないようにすることができます。スズメバチトラップを使って被害を防ぎましょう。

◆スズメバチトラップの作り方

1. 準備するもの

- ・ペットボトル：表面がなめらかで2リットル程度の大きさのもの
- ・誘引剤の材料（ペットボトル1本あたり）

誘引剤A：酒90ml、ぶどうジュース180ml、カルピス180ml、界面活性剤入りの洗剤 数滴

誘引剤B：酒300ml、酢100ml、砂糖100g

⇒誘引剤はA又はBのどちらか作りやすい方の材料をご準備ください。酒は焼酎や料理酒

- ・注意書き（ハチトラップ！さわらないで！）：布ガムテープに油性ペンで書いたもの



大きくなった
スズメバチの巣
(イメージ)

2. 手順

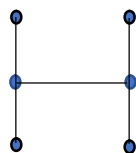
①ペットボトル上部に2cm四方の大きさのH（エイチ）を書き
千枚通しで6カ所に穴を開け、線に沿ってカッターで切り込み
を入れる（図1）

②切り込みの下半分を内側に、上半分を外側へ折る（図2）
⇒これを3ヶ所にする

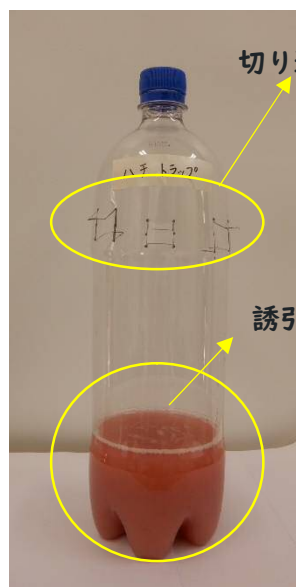
③誘引剤の材料をよく混ぜ合わせてペットボトルに入れる

④注意書きを貼る

（図1）



（図2）



切り込み3カ所

誘引剤

◆トラップの設置

- ・時期：3月下旬から5月中旬まで
- ・場所：高さ2mくらいで、直射日光の当たらない庭木など家の周囲の樹木に吊り下げる
⇒人が通らない、子どもの手が届かない場所に設置すること
- ・設置作業は、ハチの活動していない夜または早朝にすること
- ・軒下やベランダなど、建物に近い場所ではあまり捕獲できません
- ・ハチの捕獲状況が悪いときは設置場所を変えること

捕獲した
スズメバチ



◆注意すること

- ・6月以降は女王バチではなく多数の働きバチをおびき寄せてしまい、刺される危険がありますので、仕掛けたトラップは5月下旬には取り外しましょう。
- ・誘引剤の量が少なくなったり、ハチの死骸がたまってくると捕獲状況が悪くなります。週に1回くらい新しいものに交換すると効果的です。
- ・ハチの死骸が入ったトラップを処分するときは、針が刺さらないように注意してください。（素手でさわらないようにし、割りばしなどを使いましょう）